

令和7年度 第4回 北浜中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年2月10日（火） 13:30 から 15:30
- 2 開催場所 北浜中学校 小会議室
- 3 出席委員 大村 仁、齋藤千朝、原崎佳久、古谷一平
田中隆雄、高林博史、椿田育代
- 4 欠席委員 波多信広、大岡成光
- 5 学校支援コーディネーター 渥美英明、竹内真哉（欠席）、松嶋のぶこ（欠席）
- 6 オブザーバー 松野 聖（北浜南部協働センター）
- 7 学 校 岡田芳樹（校長）、水谷裕士（教頭）
井ノ口さおり（CS 担当）鈴木敬子（CSディレクター）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CS ディレクター 鈴木敬子
- 10 議長の選出
司会から議長の選出について意見を求めたところ、会長から原崎委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。
- 11 報告
(1) 第3回学校運営協議会議事録確認
(2) 体罰アンケート結果について
- 12 熟議事項
(1) 学校関係者評価の結果及び考察
(2) いじめ防止のための取組について
(3) 来年度の学校運営の基本方針について
(4) 学校運営協議会の自己評価と来年度の目標について
- 13 会議記録
議長から、委員総数9名のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。
(1) 学校関係者評価の結果及び考察の説明（井ノ口主幹教諭）
 - ・ SNS 問題では生徒自身の評価は高いが、親は不安である。学校の中ではどうか？
→生徒からの相談は1, 2件であり少ないが、今後も丁寧な対応を継続していく。
 - ・ 学習面の評価が高いがどうか？（齋藤委員）
→学力調査では平均を上回る良好な結果である。タブレットを活用した協働的な学びも定着しつつある。（校長）
- (2) いじめ防止のための取組について

- ・浜松市の基本方針を受けて学校の基本方針を決めている。学校としては、もっと実用的なものにしたいと考えている。（校長）
 - ・生徒と話すと生徒は大人顔負けの意見を出す。（大村委員）
- 生徒の人間関係の問題では子供と保護者のとらえ方に温度差がある場合もある。大人と子供と一緒に「いじめ防止基本方針」を策定・議論する場を設ける計画である。（校長）

(3) 来年度の学校運営の基本方針について

- 単なる「生きる力」ではなく、困難に直面した際に自ら考え発信し、周囲に助けを求められる「生き抜く力」を重点に掲げたい。生き抜くために必要な力について共通理解する。「関わる」ことに軸を置きたい。いろいろな場面で教員の意識を変えたい。もっと地域の人と関わりを持ち、子供たちに良い経験をさせたい。（校長）
- ・グランドデザイン等について意見を出してください。（原崎委員）
- ・資源回収はどうなっているか。（大村委員）

→たくさん持って来てくれてはいるが、地域の方が回収のコンテナに入れやすくするために門の近くに設置する予定である。（校長）

- ・持って行き易いようにしてほしい。（齋藤委員）
- ・資源回収をしていることが周知されていない。（古谷委員）
- ・自治会の会報に入れてもらったらどうか。（大村委員）
- ・常時回収できるとよい。地域への広報が必要である。（原崎委員）

(4) 学校運営協議会の自己評価と来年度の目標について

- ・学校からのいろいろな情報の発信力を強化する。結果、地域との連携が向上し学校を盛り上げていける。（渥美委員）
- ・資源回収については昨年 PTA でも子供を通して発信したが、範囲が学校に限られてしまった。より効果を上げるには地域への発信が必要である。（高林委員）
- ・地域への周知がちょっと少ないと感じている。生徒は地域で生まれ地域で育っているの、生徒を中心に学校と地域が連携していきたい。行動がどう影響するかまで考える想像力が大事。（椿田委員）
- ・地域に中学生がいないので中学校のことがよくわからない。今、子供たちが何をしているか、こんなボランティアをやりたいとか学校から情報を発信し、地域への協力を依頼していく方策とするのはどうか。（田中委員）
- ・「北中応援隊」を立ち上げ、活動実績も作ることができ一歩ずつ前進できている。並行して活動への理解も広がってきていると思う。急に進めようとするとう問題も出てくるので着実に進めていきたい。

今まで生徒のために何ができるかに視点が行きがちだったが、次年度以降は地域のために生徒が何ができるかということも考えたい。そのために地域を知ることも大切。（原崎委員）

- ・ 来年度は、生徒も地域も教職員も「変革の年」になる。委員として手助けできればと思う。（古谷委員）
 - ・ 熟議は良くされていると思う。そろそろ実現していく段階だと思う。小学校の運営協議会にも参加しているが、活動が盛んでボランティアの募集も多い。地域の人たちとの橋渡しをしてくれる人がいるので、様々な人が協力してくれている。小学校と中学校では内容が異なるが、先生方ももっと会議に参加してもらえると具体的に実現できていくのではないか。（齋藤委員）
 - ・ 活発な意見交換がされ立場ごとの意見が貴重と感じている。実行へ移す時期に来ている。中学校から、中学生がいない地域へもいろいろな発信ができる場が来年設けられると嬉しい。（大村委員）
 - ・ 小学校では時には職員も参加して様々な活動の話をしている。地域の人とのつながりが大切になる。（齋藤委員）
 - ・ 民生委員の会合で周知する等、地域のサロンとの連携を通じた広報の強化。例えばサロンに生徒が来るのも良いと思う。（椿田委員）
- 会の持ち方を考えたい。直接生徒から話すのも、中学生としては面白い。教員とかも含めた会にしたい。中学生が外に行けるような活動を考えたい。（校長）

1.4 その他連絡

夢育やらまいか事業CS加算分報告